

会 議 概 要 書

会議の名称	令和7年度第1回伯耆町総合計画審議会
開催日時	令和7年6月11日（水）午後2時から午後3時30分
開催場所	本庁舎2階 応接室
出席者 （敬称略）	会 長 景山 良一 委 員 箕浦 昭彦、長谷川 正、影山 陽慈、湯村 洋子、 福光 康文、橋本 将美、沢田 圭太郎 伯耆町長 小澤 敦彦 事務局 一橋企画課長、生田
会 議 の 主 な 内 容	
【議事内容】	
【説明事項】 第4次総合計画策定について	
【協議事項】 まちづくりアンケートについて、中学生アンケートについて	
【その他】 町民との懇談会について、次回開催予定	
【会議概要】（要約）	
<p><挨拶>（小澤 町長）</p> <p>総合計画とは行政における最上位計画であり、町民の声を聞いて現状をしっかりと分析し、今後10年あるいは20年を見据えた、まちづくりの指針を策定していくものです。審議会は例年、開催していますが、本年度は、現在の第3次総合計画が令和7年度末で計画期間満了となる事から、来年度からの第4次総合計画を策定する年度となっています。本日は、その策定に向けて審議会に諮問をさせていただき、その後、3回の会議を経て、来年2月開催予定の4回目の会議にて委員の皆様から答申いただく予定としており、町にとって非常に重要な年度と認識しています。</p> <p>その策定にあたり事務局と協議して、今回、大きく3つの点に変更を加えました。</p> <p>1つ目は、中学生アンケートの実施です。未来の担い手である中学生の意見もしっかり聞いていこうとすることで追加しました。</p> <p>2つ目は、町民との懇談会です。アンケートだとどうしても多くの方が住む地域の意見が多くなってしまいがちになります。伯耆町には6つの地域があるため、地域ごとの課題に対応についても計画に盛り込むように考えており、6地域にて「まち∞未来ミーティング」を開催して、意見交換を行うようにしています。その他にも、次世代を担う若者、子育て世代の方の思いを聞くため、18歳から40歳代の方を対象とした「次世代ミーティング」の開催、集落・老人クラブ・PTA等の各団体の手挙げにより開催する「まち∞未来Café」を予定しており、いろいろな分野、あるいは地域ごとの課題を拾い上げ、総合計画に盛り込んでいこうと考えています。</p> <p>3つ目は外部の方からアドバイスをいただき、計画策定を進めていくというところです。総務省の地域力創造アドバイザー制度を活用し、アンケート分析や計画についてアドバイス等の支援をいただきたいと考えています。</p> <p>以上のようなことも踏まえ、委員の皆さまには計画策定にあたり審議いただき、来年度からのスタートに向けて進めていきたいと思っておりますので、貴重なご意見、忌憚のないご意見をいただきます様、お願いします。</p>	
<p><説明事項（第4次総合計画について）>（生田）</p> <p>○審議会の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会とは <p>審議会は、町長の諮問に応じ、伯耆町の総合計画及び土地利用基本構想について調査及び審議する。（伯耆町総合計画審議会条例第2条）</p>	

・今年度の審議会

第4次総合計画の策定について、内容等について調査、審議していただき、審議会にてご意見をいただきたい。

・主な予定（協議事項）

- 第1回（今回）：まちづくりアンケート、中学生アンケートについて
- 第2回（8月頃）：アンケート結果、前年度取組状況
- 第3回（12月頃）：計画（原案）
- 第4回（R8. 2月頃）：計画（最終案）

・その他

各会議前に資料送付。事前にご確認いただきたい。

○第4次総合計画について

・計画期間：令和8年度から令和12年度

・策定方針

①第3次総合計画をベースに検討を進める。

第3次総合計画より地方創生（総合戦略）の取り組みも含めて、一体的に策定している。今回も同様の形にて策定を進めていく。

②デジタル活用等の国が掲げる新たな取り組みも盛り込むよう検討を進める。

③住民の意見を伺い、分析し計画に反映させる。

・体制と役割

[町内部] 事務局：企画課

各課職員会議：課ごとに推薦された計画策定に係る担当職員にて構成。
計画（原案）等の検討・作成を行う。

課長会議：管理職以上にて構成。計画（原案）の精査を行う。

★地域力創造アドバイザー

総務省が実施する制度で、地域の魅力や価値を高めて、地域力を向上させるために設けられたもので、アドバイザーの指導や助言を受けながら、地方自治体が政策に取り組んでいくというもの。アドバイザーは観光や商業等のさまざまな分野において取り組まれている方が登録されている。今回はその中から、他自治体で計画策定に向けた取り組みの支援を実施された経験があり、人口推計の分析を専門分野としている方に計画策定に係る支援を依頼する予定としている。

[審議会] 町の諮問に応じて、町で検討した計画（案）について調査、審議を行い、妥当な計画であれば、その旨を町へ答申する。

[議会] 計画（案）（答申後）の議案上程（R3. 3月）により審議。

[町民] アンケート、懇談会、パブリックコメントによる意見提出。

[質疑等]

（景山 会長）

総務省ということだがどのようなものなのか、わかりにくい。

（生田）

国が地方創生を進めるためいろいろな方針、取り組みを掲げられています。それは東京都に人口が集中し、地方は人口減少が進み衰退している状況を改善すべく、人を地方に分散させ、移り住んでいただき、地方の活性化を進めていくための方針となっています。

地域力創造アドバイザーとは、その取組の一つです。

その他、国は「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定し、デジタルを活用して地方創生の取り組みを進めていくという指針を示しています。国の取り組みを把握し、活用して総合計画を進めていきたいと考えています。

<協議事項①（まちづくりアンケートについて）>（生田）

○まちづくりアンケートの概要

- ・アンケート対象者：町内在住の16歳以上の方から無作為に抽出した1,500名。
- ・回答方法：返送またはWEB回答

・調査期間：6月下旬～7月下旬

アンケート発送 6月30日予定、回答期限 7月25日予定

○アンケート内容

- ・過去のアンケート結果と比較できるようにする
- ・新たな取り組みや社会環境、時代の流れにマッチしているかをポイントとして修正等の変更を行った・

○前回アンケートからの大きな変更点

- ・問8の選択肢に「学校教育・社会教育の推進」を追加及び問10の追加
前回アンケートでは、子育ての中に教育というものが入っていた。しかし、教育は今後、将来を担う子供に関わる重要な項目であり、将来、町が発展していくために重要な要素であることから、個別に皆さんから意見を伺う設問となるよう変更を加えた。
- ・問14 集落（自治会）をはじめとするコミュニティ活動への参加、協力についてどのように考えているかを把握する設問を追加
今後、人口減少が進む中で、集落等のコミュニティにより共助というものはかなり重要になってくるものだと考えている。町としてはコミュニティ活動の推進をしていくべきと考えてはいるが、町民はコミュニティ活動への参加に対してどのように考えているのかを把握するためにこの設問を追加した。
- ・問15 余暇や休日を過ごすお気に入りの場所について伺う設問を追加。回答は町内と町外、それぞれお答えいただくようにしている。
町内は、維持や拡充していく場所等を検討する要素になる。町外についての回答は町内にはないものとなるため、そういった場所を町としてどうしていくかということを考えていく要素になると考えている。それは伯耆町の暮らしやすさに繋がっていくと考えているため、具体的な場所について、参考として伺うこととした。

[質疑等]

(景山 会長)

前回の回答率は。

(生田)

前回の回答率は46.9%。1,500名に送付して、703名から回答をいただいています。

(長谷川 委員)

アンケートを総合計画策定時にされることはわかるが、20年間同じ町政で進んできたこともあり、町のイメージが固定化されている方もいると思う。前町政は財政の健全化を主において事業をされてきたと思うが、それにより他市町村と比較し、取り組まれていないこともあったと思う。そういった町の取組姿勢の度合いが見て取れてしまうことから、アンケートを回答される方の中には、固執してしまった町へのイメージが反映されてしまい、本人の思いとは異なってくるのかなと思います。なので、今までの町の取組を町として総括した上で、アンケート結果を見ないといけないと思います。新しい町長が就任され、大きくイメージが変わった。ただ、総合計画を絵に描いた餅のように綺麗な事を並べてもうまくいくのかなと思うところもあるので、検討していただき、何か思い切った政策を考えていただきたい。

(一橋 企画課長)

ご意見はよくわかるが、まずは町民の意見を伺うための手法として、アンケートをとらせていただく。本来の思いかどうかということですが、アンケートの回答については忌憚のないご意見をいただけるよう、冒頭にその旨を記載するようにします。

アンケートの中に満足度、重要度を聞く質問があり、ここが非常に重要で過去のアンケートから経年比較できるようにしており、この5カ年の取り組みが評価として表れてくると思います。

(長谷川 委員)

評価を比較することは大切だと思うが、評価する人のうち、政策に直接関りがある人ですごく批判する、若しくはすごく評価する人は多分1割くらいじゃないかなと思う。残りは真ん中辺りで評価し、一番上、一番下をつけることは無いと思う。そういったアンケート結果を見て、総合計画に反映するというのはどうなのかなと思ってしまう。

(小澤 町長)

今回、総合計画を策定されるにあたり、平均点、大多数の意見だけで作成していくのではなく、長谷川委員のような意見も聞き、地域の課題、皆さんの思いを寄せ集め、それを分析し、20年後を見据えて、町がやるべきことを検討していこうと考えています。町民、職員、議員の方々などすべての方が満足するような完璧な総合計画はできないかもしれませんが、皆さんと町が前に進んでいくための計画策定のプロセスを大事にし、外部の方にアドバイスをいただきながら進めていきたいので、どんどんご意見をいただけたらと思います。

(沢田 委員)

問8に学校教育・社会教育の推進を入れられたのは良いことだと思います。それに関連する設問となる問10の選択肢に「学校教育施設の整備」がありますが、「図書館の利用促進」というのも追加してはどうかと思います。

取材などをとおして、図書館の役割というのが非常に大事だと考えています。鳥取県の図書館の特徴として、県立図書館と市町村図書館がすべて繋がっており、県立図書館の蔵書を1日、2日待てば最寄りの市町村図書館で借りることができます。その他にも2017年度から県立図書館と全市町村図書館が一緒になって、図書館居場所キャンペーンをやっています。図書館は本を借りたり、読んだり、調べたりするだけではなく、第3の居場所というキャッチフレーズがうたってあり、ただぼんやり過ごすだけでもいい、孤独な人の心が癒され、暑い日には空調のきいた涼しい空間で過ごすといった場所として利用してもらうという取り組みです。また、困りごとがあったときに司書の方に聞いてみると、相談先を教えてくださいと、困りごとの繋ぎ役を果たしてくれたり、図書館の利用の幅が広がっていますが、意外と知らない方がいるのではと思うので、そういったことを投げかけてみて、どの程度の反応があるのか確かめてみてはと思いました。

問15についてですが、質問の意図というか、この質問だけ具体的な名称が返ってくると思うが、それをどのように活用されるために設けられたのかお聞きしたい。

(生田)

問10については検討させていただきます。

問15についてですが、町内の場所については、町民がよく利用されている場所であるため、そこを衰退させてはいけない、維持していく場所だということ把握することができ、そうするための施策を検討する要素になると思います。町外の場所には、固有名称で出てきたものをどういう分野のものかをまず分析し、町内に無いものについて、どのように設けていくか検討する要素になると思います。ただ、すべてが出来るわけではなく、またすべてを行政が行うことも難しいと思いますので、その中で何ができるかが重要なポイントと考えています。他の自治体で、本屋さんが無いため、その機能を図書館に設けたという事例もあります。計画には意見から読み取れるニーズから大項目としての施策を記載する形にはなると思いますが、具体的な意見は、企業を呼んでこれないかとか、具体的な施策・事業計画の検討に繋がるとも考えています。

(沢田 委員)

アンケートのほかの設問に、観光資源を活用した誘客拡大、人が集まる魅力的な拠点整備というものもあります。コロナが明けて、米子空港には5月末に台湾便が就航し、更にインバウンドが増えてくると思います。伯耆町が誘客拡大しようと思うのであれば、地元の方が魅力を感じている場所じゃないと難しいのではと思います。問15の回答を基に人を呼び込むためにはこういう機能がここに加わるといいなとか発展させる要素としても活用できるかなと思いました。

★検討結果（問10）

問10のうち「学校教育施設の整備」のみ施設整備に関する選択肢となっており、大きなくりで意見を伺う選択肢としてバランスが取れていない。また、問16の29にご指摘の公民館、図書館の有効活用についての満足度、重要度を聞く設問があり、28に学校教育施設の整備もある。以上のことから、問10の選択肢から「学校教育施設の整備」を削除し、施設の有効活用等については問16にある設問にて聞くこととする。

<協議事項②（中学生アンケートについて）>（生田）

- ・今回より、まちづくりアンケートの対象外となる中学生へもアンケートを実施。
- ・目的：中学生にも意見や思い、考えを把握して、町政のまちづくりに生かしたい。
中学生の参画。アンケートを通して町政に関心を持ってもらい、いろいろ考えてもらうきっかけにしていきたい。
- ・回答方法：Google フォームにて回答してもらう
- ・調査期間：夏休み前（7月頃）を予定
- ・アンケート内容：まちづくりアンケートを基に中学生向けに内容を精査し作成をした。
 - ・問1～8はまちづくりアンケートにもある基本的な事項について聞く設問とした。
 - ・問9はまちづくりアンケートの大項目3にある力を入れてほしいところについての設問を整理して、具体的な内容の選択肢にして聞く設問にした。
 - ・問10は町の「良いところ」「自慢できるところ」「悪いところ」「良くなってほしいところ」を聞く設問を設けた。中学生が率直に感じることを記載してもらい、町の施策に反映させるため、また他の会議で県外に学生が「伯耆町の、鳥取県の良いところは」と聞かれたときに答えられない方がいることを聞き、回答を考えることで中学生自身にも伯耆町について知ってもらう機会になると考えている。
 - ・問11 将来の仕事についての設問です。中学生の目指す仕事は何かを把握し、定住してもらうための働く場所の確保を検討する要素としたい。
 - ・問12 町長になったらやってみたいことを聞く設問。中学生ならではの独創的なアイデアを町政の参考としたい。

※資料修正：問8

誤：問6で「3」「4」に○をつけた方におたずねします。

正：問6で「4」「5」に○をつけた方におたずねします。

[質疑等]

（景山 会長）

中学生アンケートは学校で実施されるのか。

（箕浦 委員）

中学生が学校で使用しているタブレット（1人1台）で回答します。Google フォームは自動的に集計してくれるのでとても便利です。

（景山 会長）

アンケートをされた後、その回答をもとに町長と話す機会を設けてはどうですか。

（小澤 町長）

検討してみます。

（景山 会長）

ぜひ、実現してもらいたいと思います。

（箕浦 委員）

小中学生はふるさとキャリア教育というものを総合的な学習の時間で取り組んでいる。これは、小学校から中学校3年生まで自分たちの住むまちについて調べて、愛着をもって、誇りを持ってもらい、最後は自分自身の進路につなげていってもらう。また、中長期的な目標としては、この貴重な伯耆町の担い手として人材育成をしていくということにあります。学習については、学年ごとに段階的に行っており、中学2年生には職場体験があり、中学3年生にはふるさとキャリア学習の総まとめとしてグループごとに伯耆町の提言を作成し、町民の方をお呼びし、発表を行う。そのため、学習の進捗度合いにより、考え方がおそらく異なってくると思うため、学年によっては回答の内容に差が出てくるかもしれない。そういったのを見れるようにするとおもしろい結果が見えてくると思います。

（福光 委員）

中学生アンケートは今後もこのタイミングで続けられていくのか。

（生田）

基本的には、総合計画策定のタイミングで実施していくものと考えております。

（長谷川 委員）

合併前に今後の方向性とかについて、どう思うか町民に意見を伺うことがあったと思う。

その中で当時の中学生やその保護者の方からは、中学校は1つにして、図書館やスポーツ施設を含めた教育エリアをつくって、大学等で県外に出て、最終的には伯耆町で事業をやってやるというような人材を育成していこうというような要望もあったと思うが、当時の事情等により計画はされなかった。ただ、当時のアンケートで将来のこととか貴重な意見があったことについて、すごいなという印象を持っていたので、お伝えさせていただいた。

(小澤 町長)

当時は検討の結果、溝口小に日光小が統合することになりました。中学校についても検討していましたが、いろいろな課題があり、統合は難しいということになった。ただ、生徒数も減ってきているため、今後、改めて検討する必要が出てくると思う。

(景山 会長)

問11の選択肢に「介護士など」とあるが、「介護福祉士など」が適切と思う。

(生田)

修正します。

<その他①(町民との懇談会)>(生田)

- ・今年度、まち∞未来ミーティング、次世代ミーティング、まち∞未来Caféという3つの懇談会の開催を予定している(内容は資料のとおり)。
- ・懇談会での意見を分析し、総合計画にも反映させていく。
- ・総合計画策定のタイミングに間に合わない懇談会については、次年度以降の事業等の検討に反映させていく予定。

[質疑等]

(長谷川 委員)

次世代ミーティングの概ね40歳代の方というのはどれくらいの範囲か。50歳代とかでも問題ないのか。

(一橋 課長)

50歳代だとしても参加していただいて構わない。

(福光 委員)

県では、地域の方々、若い世代、子育て世代、また様々な分野からの意見というのは県としても非常に参考になるため、意見交換の内容を県へ情報提供いただきたい。

(生田)

承知しました。一応、懇談会の結果はホームページに公表するようにしています。そちらも参考にしてください。

<その他②(次回開催予定)>(生田)

- ・次回は8月頃を開催予定としている。内容はアンケート結果報告、前年度の総合計画の取組状況報告。
- ・現在の委員任期は6月30日で満了となり、7月1日からの委員を検討している。事務局としては引き続き委員をお願いしたいと考えている。ただ、デジタル等の新たな分野の方の検討も必要と考えているため、委員のお願いについては改めてさせていただきたい。

